

## 2022年度 第3回 防災委員会 議事録

開催日時：2022年11月19日(土) 14:00～17:00

開催場所：福岡商工会議所 307号会議室及びWeb (Zoom) 併用

会場参加者：味澤泰夫・有村研一・池田圭一・石本俊亮・寺田利博・松本義信・持田拓児・高橋浩一  
(大分県)(8名)

Web参加者：岡田裕彰・緒方正隆・香月裕宣・南嶋佳典・宮本修・八百屋さやか・荒川直樹・中村勲・  
松川浩一(宮崎県支部)・榑木秀人(鹿児島県支部)(10名)

欠席者：梅田和久・箆島秀利・北里憲章・田辺努・中田敦也・西井康浩・久富浩明・江口友弘・古  
賀浩史(佐賀県支部)・園田直志(長崎県支部)・津山輝男(熊本県支部)(11名)

### 1. 防災委員による発表会と質疑応答

講師：八百屋さやか氏 「地球温暖化と気象災害」

#### 【発表内容】

以下の6項目についてパワーポイント資料に基づき説明・解説がなされた。

- (1)地球温暖化に係る世界の認識
- (2)現在までの気候の変化
- (3)将来の気候
- (4)地球温暖化と気象災害
- (5)地球温暖化対策(緩和と適応)
- (6)将来の災害リスクを減らすために

#### 【質疑応答】

Q(南嶋氏): 温暖化の影響に関して、日本における海水面の水位上昇のデータ等があればご教授願  
いたい。(後日、八百屋様から丁寧な説明資料等による補足説明を頂きました。)

A(八百屋氏): 日本近海でも海水温は上昇し、水位が上がっているところが多くなっている。手元  
にデータはないが、水位上昇により高潮の影響等受けやすくなり堤防等のかさ上げなど  
行っている事例も多い。以前より被害が増えている状況が報告されている。

Q(香月氏): 小学生への防災授業の資料で『地球温暖化の要因はみんなのせい』と踏み込んで話し  
てもよいか?

A(八百屋氏): 温暖化の根本原因の対策を行わないと、対策のコスト・時間がよりかかる。自分た  
ちが原因という話を少しでもいいから是非してほしい。

Q(香月氏): 適応策という考えは以前からあったのですか?

A(八百屋氏): 以前から研究の蓄積はあったが、2018年に気候変動適応法という法律が施行された。

Q(会場): 風力や太陽光など自然エネルギーを導入するのにも膨大なエネルギーを要すると思う。

A(八百屋氏): EVや太陽光発電などの導入には相当な資源・エネルギーを要している。しかし温暖  
化を止めるにはもうそれしかないといった状況となっている。根本的には使用量を減ら  
していくしかない。

Q(味澤氏): 以前国発注のダム工事で、工事中発生するであろうCO<sub>2</sub>に見合うだけの植樹が、施  
工計画に組み入れられた事例があった。人間活動で排出されたCO<sub>2</sub>とそれを吸収する  
森林の減少との関係について伺いたい。

A(八百屋氏): CO<sub>2</sub>の濃度は、森林が吸収しても尚増加している状況である。アマゾンの焼畑の森  
林伐採はひどく、森林の伐採等でCO<sub>2</sub>吸収量が減ったのも温暖化の要因の一つに挙げ

られている。また、日本でいうと植林した杉ヒノキも 50 年以上経過すると CO<sub>2</sub> を吸収しなくなる。若い木に植え替えないと CO<sub>2</sub> 吸収量は増えない。

Q (有村氏): これからは海の領域、洋上風力や北海道電力や福岡市が取り組んでいるブルーカーボン(海の森を作る)などの取り組み、生態系を活用した防災への取り組みも大切と思うがいかがか？

A (八百屋氏); CO<sub>2</sub> の吸収は森林以外に、都市緑化、土壌吸収がある。ブルーカーボンは最近でてきたもので、現在は温暖化対策に組み入れられていない。今後海藻などの CO<sub>2</sub> 吸収量などの研究が進めば、温暖化対策の中に組み入れることができるようになるかもしれない。

Q (香月氏): 広葉樹と針葉樹で CO<sub>2</sub> の吸収量が異なるのか？

A (八百屋氏); 広葉樹と針葉樹、また樹種によって CO<sub>2</sub> の吸収量は異なる。  
森林の樹種ごとに細かく吸収量は把握されている。

Q (樽木氏): 再生可能エネルギーの活用等に関する最新の動向は？

A (八百屋氏): 今年だけに限ると特に大きな動きはない。  
建設関係の業種では、エコセメント、電動の重機の開発、ICT による効率化など、建設業界も脱炭素に向け動いている

## 2. 前回の議事録確認

持田委員長が前回議事録の概要を説明し、各員から異議はなく議事録は了承された。  
尚、議事録はHPにアップすることとする。

## 3. 各県支部の活動報告

### 1)大分県(高橋氏)

#### 活動報告

- ・R3 は防災関連の演題の CPD 研修を実施。現場見学会はコロナで中止
- ・R4 は第一回目『巨大地震に立ち向かう』というテーマで CPD 研修実施。また、本日大分県『玉来ダム事業』の講演を実施している。

#### ○他団体の防止関連行事への参加

- ・大分県の『土砂災害避難促進アクションプログラム』に参加し、市町において避難訓練等を実施した。
- ・『士(サムライ)おおいた』の会へ技術士会の青年が合流して活動。また、R3.7 大分大学で『防災や減災に係る技術者』についての講義を実施。
- ・これら二つの取り組みについて、熊本の防災減災フェアでパネル展示を実施。

### 2)佐賀県(南嶋氏)

#### 活動報告

- ・NPO 法人技術交流フォーラムの紹介を兼ねて、佐賀県支部の活動を報告。
- ・R3 はコロナで中止したが、R4 は河川(六角川・嘉瀬川)の合同巡視を実施
- ・佐賀県の災害歴史遺産のとりまとめ作業を実施。
- ・SAPD は佐賀県支部は未策定

#### 【質疑応答】

Q (味澤氏): NPO 法人と合同で活動しているということですが、費用と決算はどのように清算していくのですか？統括や九州本部への許可等が必要なのではないか？

A (南嶋氏): 県支部に確認したい。

【日本技術士会佐賀県支部へ確認後の回答】

- ・NPO 法人技術交流フォーラムと日本技術士会佐賀県支部はそれぞれ独立して活動を行っています。
- ・活動に係る経費も別々であり、佐賀県支部として活動したものについては、九州本部に決算報告を行っています。(双方からの流用は一切ありません。)
- ・NPO 法人技術交流フォーラムの組織の中に技術士会の活動が載っていることは誤解を招く恐れがあるため、見直しを行う予定です。

A (持田委員長): この件については私からも確認したい。

#### 4. WG の報告

##### 1) WG1: 「災害リサーチチーム」の報告 (南嶋氏)

- ・前回の委員会以降、目立った進展はない。
- ・情報提供として、『南海トラフ地震と南海トラフ地震臨時情報』に関する情報を紹介。

##### 2) WG2: 「災害リスク管理チーム」の報告 (石本氏)

- ・感田小学校防災授業で使用する教材について web 会議 (R4.9.7)。
- ・感田小学校 5 年生担当との説明資料協議 (R4.10.7)
- ・感田小学校 5 年生担当との説明資料協議 (R4.10.25)
- ・日程調整の結果、R4.12.1 の 10 時 45 分より 5 年生への防災授業実施が決定。

##### 3) WG3: 「災害サポートチーム」の報告 (香月氏)

- ・直方市防災教育学校協議を実施 (8 月 29 日 植木小、感田小)
- ・10 月 7 日 感田小打合せ (5 年生への防災授業について)
- ・10 月 19 日 植木小 4 年生への防災授業を実施。反省点がいくつか出たので今後改善していく必要がある。
- ・今後の予定

12 月 1 日に感田小学校 5 年生への防災授業を実施する。

来年度 6 月までに感田小・植木小 4 年生・5 年生への防災授業、また感田小 6 年生への防災授業を実施する予定。さらに地域コミュニティを巻き込んだ活動についても検討していきたい。

(持田委員長); R5 の進め方・予定の件で皆さんから様々なご意見が出たが、広げるより先に 6 年生を対象に進めていく事としたい。12 月 1 日 10:45 より WG2 で感田小学校 5 年生を対象とした授業を実施します。多くの委員の皆さんの参加をよろしくお願いします。  
今後多くの方が講師になれるようにしたいのでよろしくお願ひしたい。

#### 5. その他報告・連絡事項

- ・「第 48 回技術士全国大会 (奈良・関西)」の報告 (香月氏)
- ・「第 28 回西日本技術士研究・業績発表年次大会 (鳥取)」の報告 (香月氏)
- ・「先進建設・防災・減災・技術フェア in 熊本 2022」の報告 (持田委員長)
- ・令和 5 年の活動計画について (持田委員長)
- ・防災委員による年間発表者と広報委員会からの寄稿対応者の決定 (持田委員長)  
次回防災委員会の発表者は松本義信氏の予定  
防災委員会のアンケート調査については、2 年に 1 回の実施とする。

- ・その他

防災委員会の発表（講師）について、今後は年に1回程度外部（国交省）の方に依頼することも検討する。

次回の運営委員会

- ・令和5年3月18日（土）14時～17時 開催を予定（商工会議所とWeb併用の開催）

議事録作成者：岡田裕彰（11月22日）